

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙・「みらい」
NO. 3978
19年8月2日(金)
Tel・Fax 095-828-1953

井原東洋一さんの 思いを受け継ぐ!

おはようございます。

私たちの友人であり、楽しく
明るい労働運動の先達であ
った井原東洋一さん(八三歳)
が、七月三〇日、入院先の長
崎原爆病院で亡くならまし
た。心よりご冥福をお祈り
いたします。 合掌。



井原さんは一九三六年生ま
れで、九歳のときに長崎原爆
で被爆されました。同時に被
爆された母や兄、姉などは、
その後、次々に原爆症で亡く
なられています。

長崎工業を卒業後、九州電
力に入社し、少数派の全九電
労組の事務局長などを務め、
一九八七年からは七期、二八
年間を長崎市議として活躍さ
れました。所属は社会党でし
たが、九五年の社民党への改
編のとき、新社会党の結党に
参加し、長崎県本部委員長な
どを務められます。

また二〇〇六年からは長崎
県原爆被曝手帳友の会の二代
目の会長として、核兵器廃絶
や脱原発運動の先頭に立つて

こられました。
私たち郵政ユニオン長崎と
は、結成数年後から交流が始
まり、二〇一〇年に作られた
「郵政ユニオン長崎の差別を
許さない支援共闘会議」の代
表として、郵政ユニオン運動
や全労協運動、国鉄解雇撤回
闘争などの理解者でした。



そのときも、秋に二度目の
アメリカの大学の招請で、講
演に行く、と楽しそうに話さ
れていました。
前回の訪米は二〇一七年の
コーネル大学の講演の旅でし
た。そのときも支部は彼の訪
米壮行会を開き、送り出しま
した。その講演旅行での話を
まとめたパ
ンフレット
の中で井原
さんは「私
たち被爆者
は『絶対悪
の原爆』に
よる悲劇を
語るときに
も、日中戦
争やアジア
太平洋戦争
によって、
日本が起こ
した過去の
残酷な加害
の歴史と反
省と謝罪の
心を決して
忘れないように自戒していま
す」と書いておられます。こ
れが彼の信念でしょう。

わけても、
二〇〇八年か
ら始まった郵
政ユニオンの
ストライキに
は、必ず現地
闘争(門前集
会)に参加さ
れ、勇気あふ
れる連帯の言
葉をいただい
たことは、な
によりも彼が
労組の、わけ
でも少数派の
正義を確信さ
れていたから
に他ならない
ことの証です。

また郵政ユニオン長崎の支
部大会、旗開き、忘年会など
にも必ず参加されました。今
年もメーデーで一緒に、デ
モのあと、水辺の森公園での
支部の打ち上げ懇親会で、楽
しいビールをいただいたほか
りでした。

被爆者だけが一方的な被害
者として、原爆被災を語るだ
けでは、諸外国の理解や支持
が得られないことを、数多く
の外国訪問、交流で身をもっ
て体験した国際感覚が下地に

あったのです。無論、彼が幹
事として関わられた「岡まさ
はる記念長崎平和資料館」の
存在も当然あるのでしょう。
七月三十一日の通夜式で配布
されたお札の言葉のなかで、
喪主で長男の井原和洋さんは、
「父の活動は国内にとどまら
ず、海外に足を運び、平和の
種をまいてきた。この種に花
が咲き、実を結ぶよう、大空
の彼方から見守ってほしい」
と語られています。

彼の平和のための海外
交流・巡礼は、ゲルニカ、
チェルノブイリ、南京、
ニューヨーク、オランダ、
パラオなどなど数え上げ
ることができないくらい
です。おそらく被爆者と
してこれだけの交流の旅
に巡礼をやり遂げた人は
ほかにおられないでしょ
う。これこそ彼の偉大な
足跡に功績だと思います。



後に続くものの決意をこめ、
謹んでこの書を霊前にささげ
る」との言葉を送っておられ
ます。まさにバトンを次世代
へとつなぐ思いでした。
いま、その井原さんとの別
れに際し、私たち郵政ユニオ
ンも同じ言葉を井原さんに送
り、労働者のたたかい、労働
運動を受け継ぎ、最後までた
たかうことを墓前に誓います。
井原さん、ご苦労様でした。
安らかに眠りください。

最後に、彼は全九電の
少数派労組が出发点です。
その労組は長崎地域のリ
ーダーであった吉田強さ
ん(長崎地区労議長を十期抜
きには語れません。一九八四
年に吉田さんは亡くなられま
すが、その追悼集のまえがき
を書いたのが井原さんでした。
井原さんは「吉田強さんの

※写真は、上から井原さん
中は七ノ三二の通夜式。大橋
メモリード。下は、今年のメ
ーデーの打ち上げ会で、水辺
の森公園、中央が井原さんで
す。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員と希望者全員の正社員化を。

ゆえに、均等待遇、なげない差別。ユニオンは労基法裁判に勝利するべし。